



III

調查結果

1 ホームページ上のアダルト情報

Yahoo! Japan上で「アダルト」というキーワードに分類されているホームページ3,589サイトのうちポルノ映像を送信しているホームページ（営利、非営利は問わない）は1,420サイトであった。

また、ポルノ映像の送信を営業内容としているホームページとして、映像送信型性風俗特殊営業が355サイト（無料で閲覧できる部分にポルノ映像はないが、有料閲覧部分にポルノ映像があると思われるホームページ50サイトを含む）あり、広告収入型ポルノ映像送信営業が246サイトあった。また、アダルトショップ営業が615サイト、性風俗特殊営業の広告宣伝を行っているホームページが308サイトあった。

(1) ポルノ映像

ホームページ上にポルノ映像（性的な好奇心をそそるような映像であり、着衣の有無、被写体の男女は問わない）が含まれているものについて、その内容の調査を行った。結果については以下のとおりである。

ア) ドメイン管理国

ポルノ映像を送信しているホームページ1,420サイトについて、そのホームページの本体が所在しているサーバのドメイン管理国を調査したところ、日本ネットワークインフォメーションセンター（JPNIC）がドメインを管理しているサーバ（ドメイン名が.jpで終わるもの）に所在しているホームページが全体の79.6%を占め、続いて米国（ドメイン名が.com、.net、.org、.edu、.mil、.usで終わるもの）の18.9%となっている。それ以外の国は0.4%とごく僅かであり、IPアドレス表示（ドメイン名が存在しないもの）であって国名が判別しないものは1.1%であった。（図3-1）

ただし、.jpドメインを除いてはドメインの管理国がすなわちサーバの所在する国というわけではない。これは、各国のドメイン名管理団体の運営方針により、サーバや設置者の所在が国内でなくてもよい場合があるためである。そのため、米国となっているものであっても、必ずしも米国にサーバや設置者が所在するというわけではない。

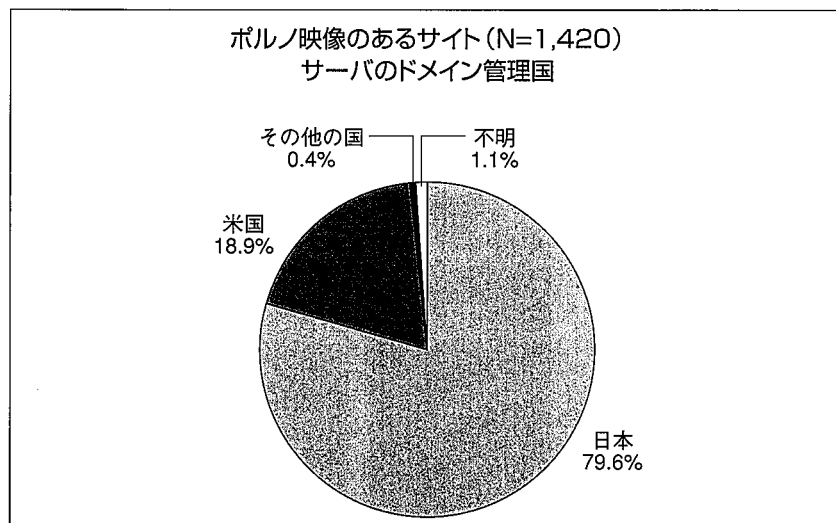


図3-1 サーバのドメイン管理国

イ) ホームページ上で使用されている言語

ホームページ上で使用されている言語（複数回答）について調査したところ、全体の99.4%が日本語を使用しており、日本人向けのホームページがほとんどを占めていることがわかる。また英語は13.9%、その他の言語は0.9%のホームページで使用されている。

(図3-2-1及び図3-2-2)

図3-2-1 使用言語（度数）

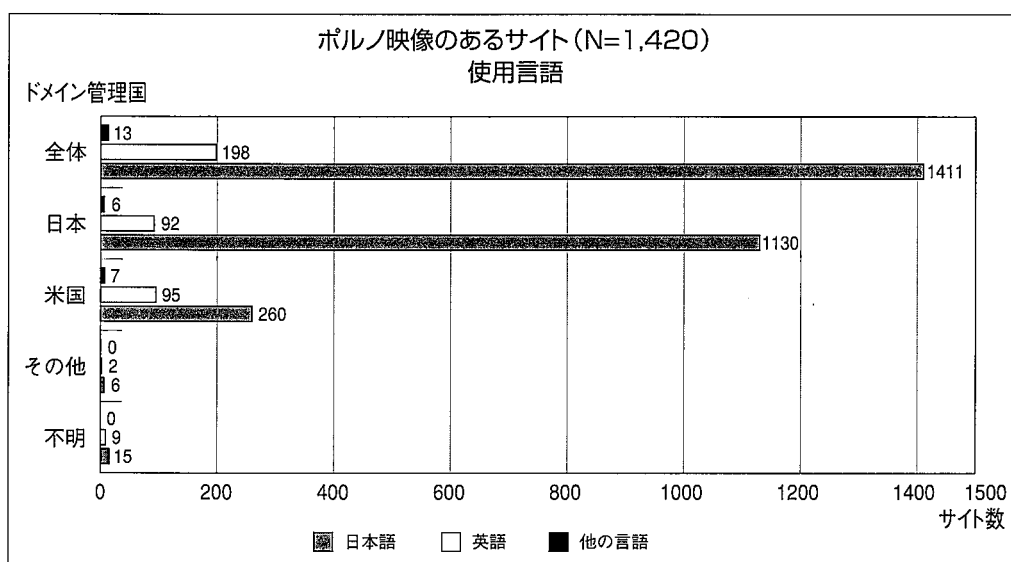
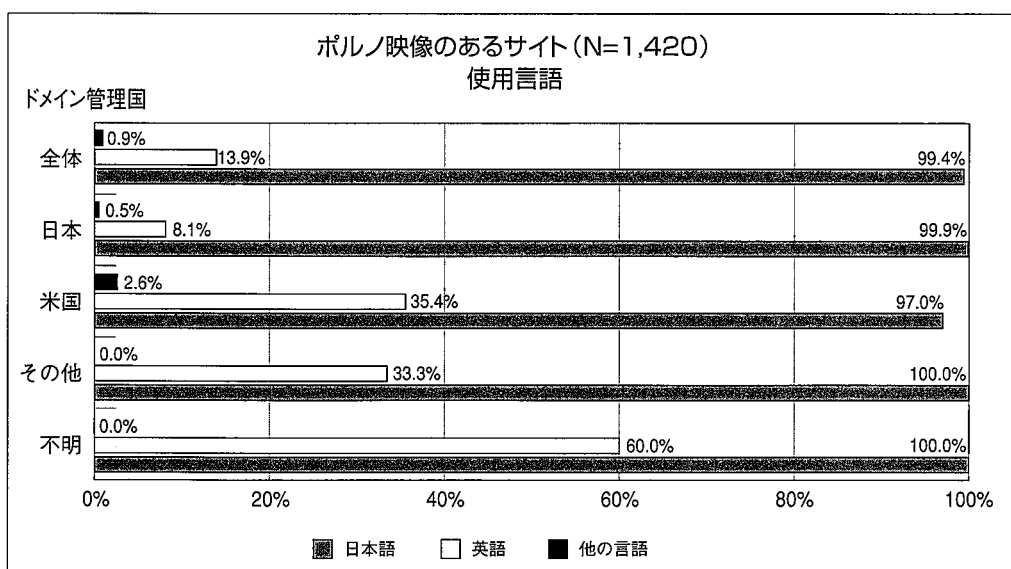


図3-2-2 使用言語（百分率）



ウ) 18歳未満の者に対する警告

ホームページの中で18歳未満の者に対して、閲覧を禁じるような警告のあるものは、全体の69.6%であり、警告がないものは30.4%である。これはサーバの管理ドメインによって大きな差がない。(図3-3-1及び図3-3-2)

しかし、警告がある場合であっても、通常は「18歳以上である」という旨の選択を行えば、だれでもポルノ画像にアクセスできるような仕組みになっている。

図3-3-1 18歳未満の者への警告(度数)

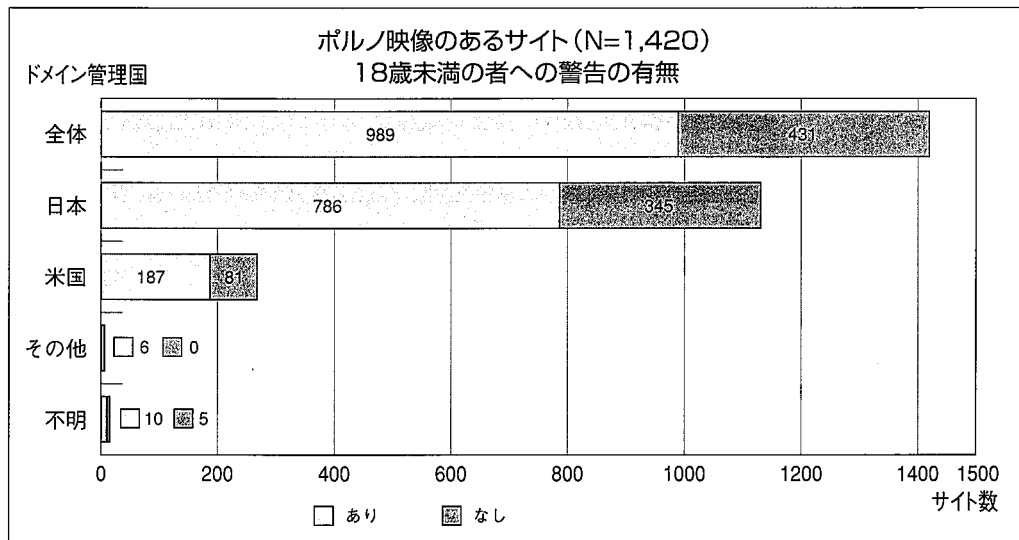
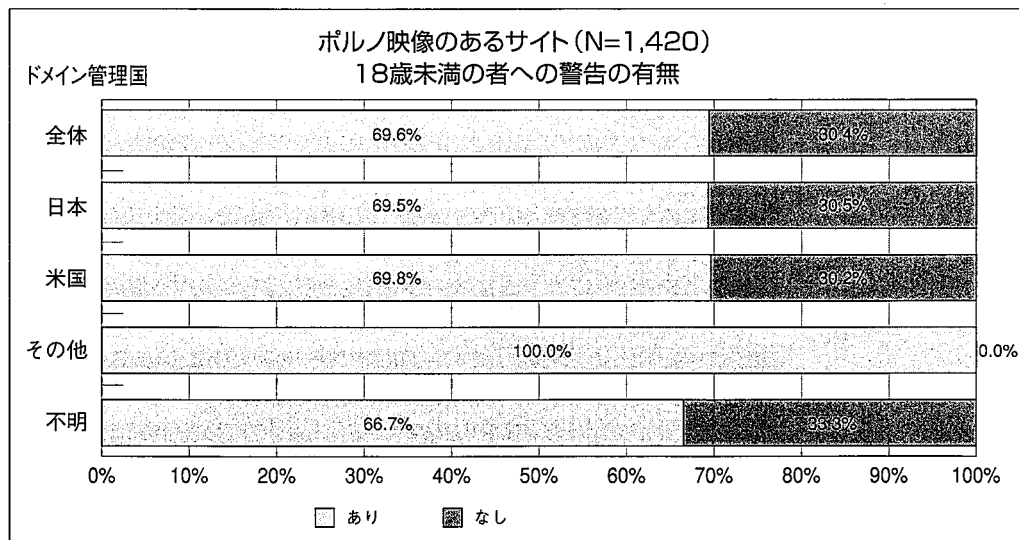


図3-3-2 18歳未満の者への警告(百分率)



工) ポルノ映像の種類

ホームページに存在するポルノ映像について、その種類を「水着姿等」、「下着姿」、「裸体」、「性行為の描写」に分類し、それぞれのホームページが送信している最も過激なポルノ映像について、その種類を調査したところ、「水着姿等」が全体の3.0%、「下着姿」が全体の9.0%、「裸体」が全体の39.0%、「性行為の描写」が49.0%となった。ただし、着衣であっても何らかの性行為を描写している映像については「性行為を描写」に分類している。

また、サーバドメインの管理国別で見ると、米国等の国外ドメインのホームページが映像の過激度が高く、性行為の描写があるホームページでは日本の46.3%に対して、米国が58.6%となっている。(図3-4-1及び図3-4-2)

図3-4-1 映像の種類 (度数)

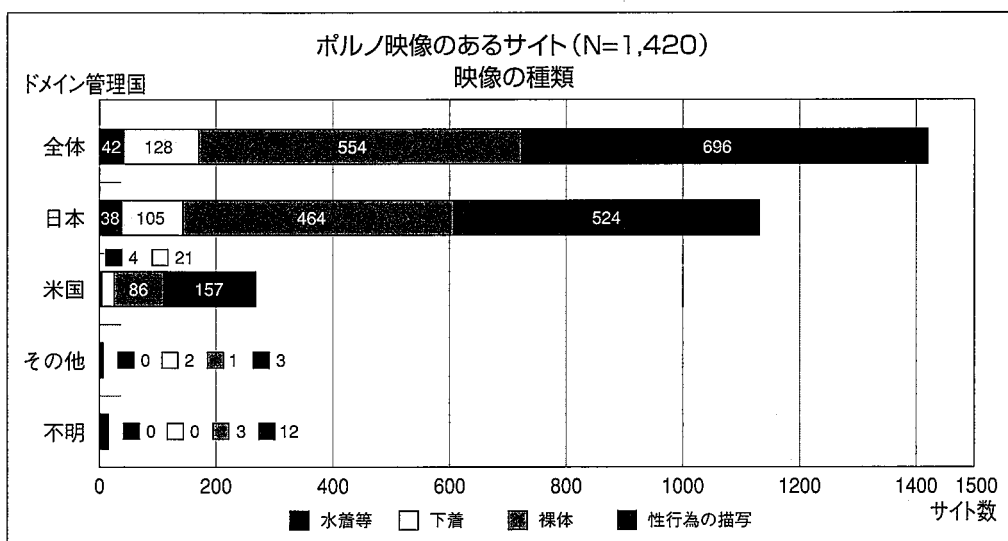
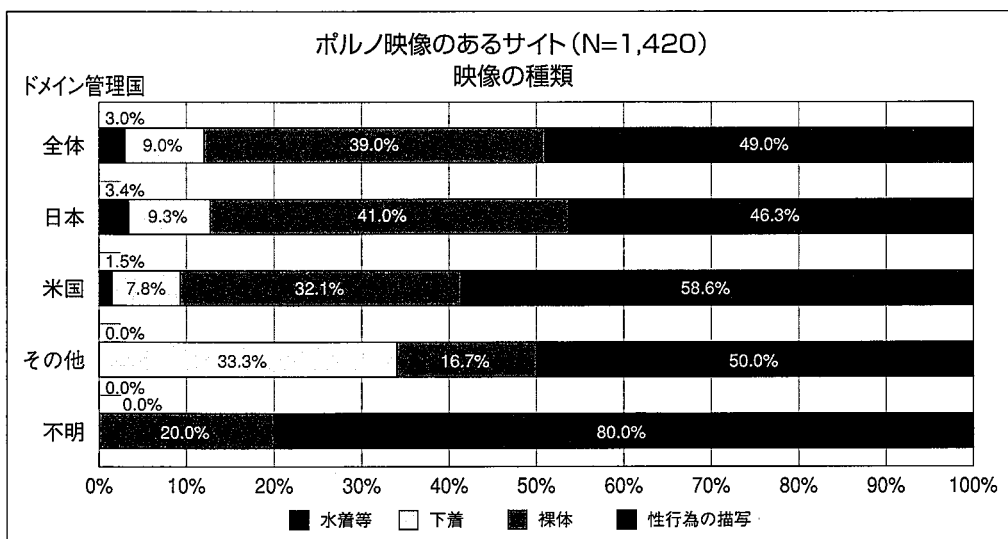


図3-4-2 映像の種類 (百分率)



III 調査結果

オ) ポルノ映像の違法性

ポルノ映像に違法(わいせつ)なものが含まれるかどうか調査したところ、全体の68.7%のホームページにはわいせつ性のある映像はなかったが、簡単に除去することが可能な画像処理(マスク)を施したわいせつな映像を含むものが24.2%、そのままわいせつな映像を含むものが7.1%と、計31.3%のホームページがわいせつな映像を含んでいた。なお、ここでは性器が露骨に描写されている映像についてわいせつとしている。

また、サーバドメインの管理国別で見ると、米国等の国外ドメインのホームページが映像の違法性が高く、日本の26.9%に対して、米国が46.6%となっている。

(図3-5-1及び図3-5-2)

図3-5-1 違法性(度数)

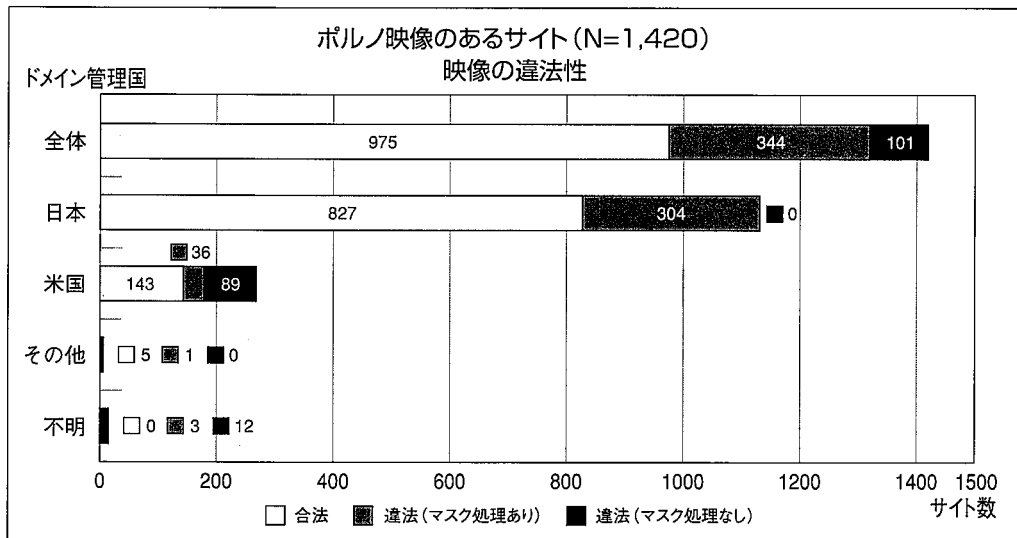
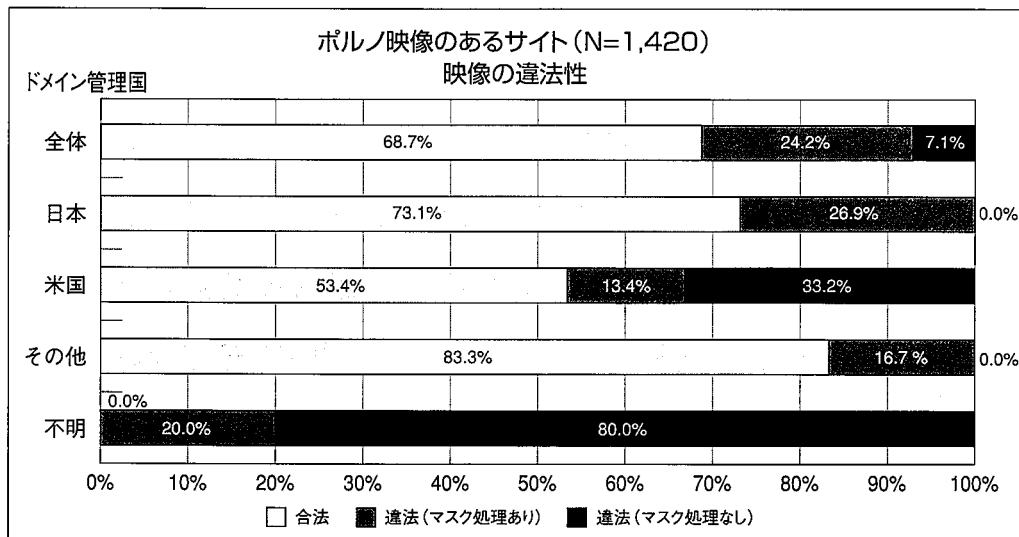


図3-5-2 違法性(百分率)



力) 特殊な映像の有無

強姦やSM等の特殊な状況(複数回答)を描写した映像が含まれているホームページについては以下のとおりである。なかでもSM(311サイト)を始めとする年少者に特に悪影響を与えるおそれのある映像が多いことがわかる。また、アニメ系の絵によるポルノ映像についても相当数(238サイト)を占めている(図3-6-1及び図3-6-2)

図3-6-1 特殊な映像(度数)

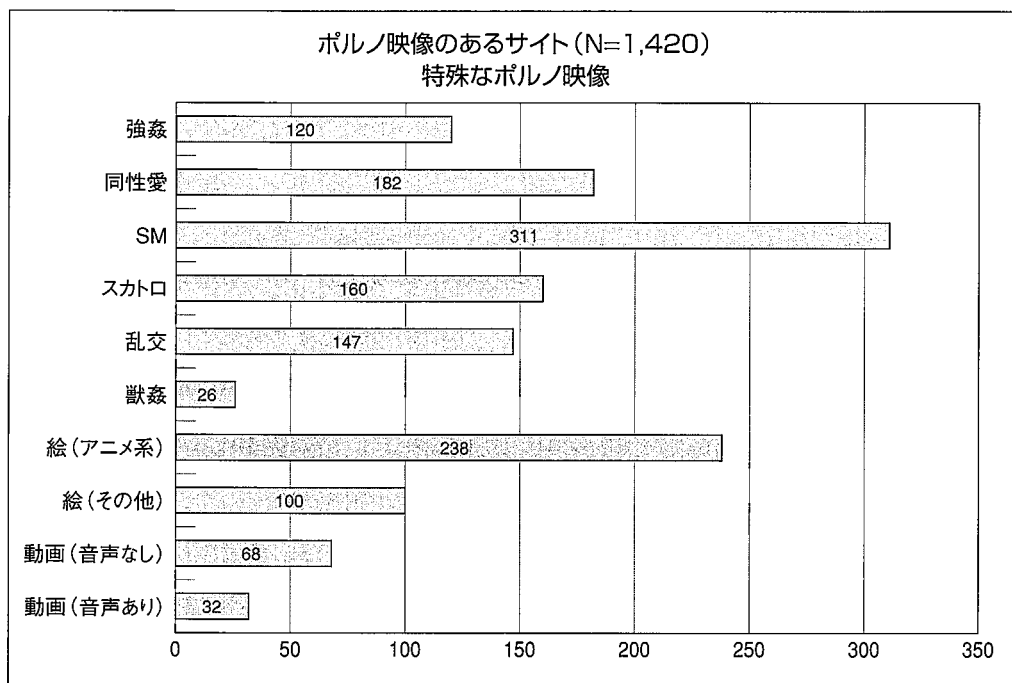
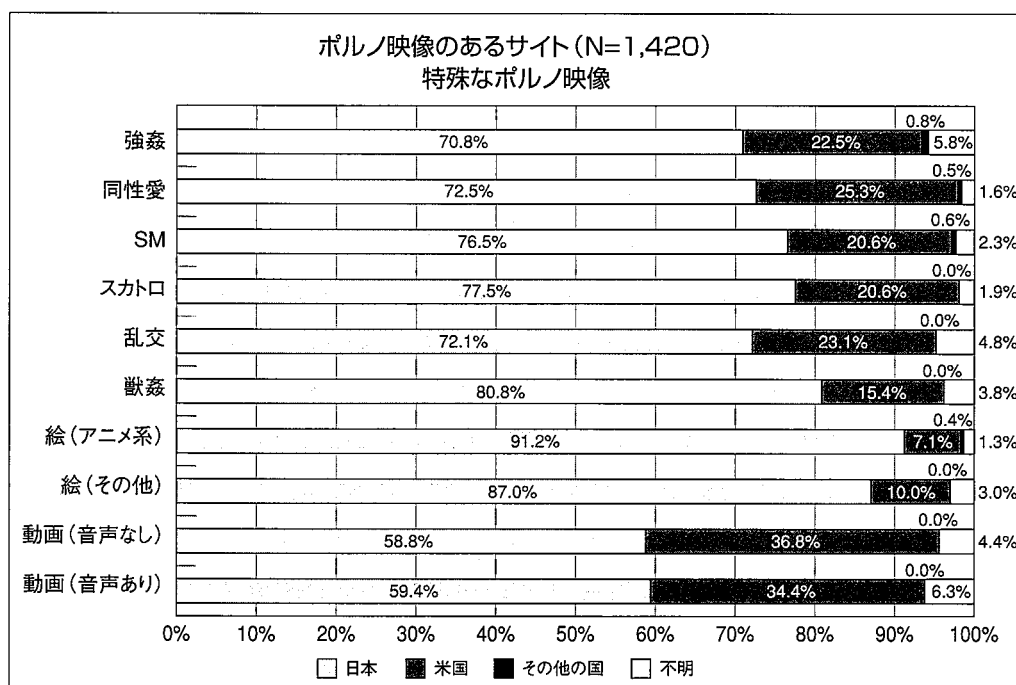


図3-6-2 特殊な映像(ドメイン国籍別)



キ) チャイルドポルノ性

ポルノ映像の被写体の年齢について調査を行ったところ、高校生を被写体としてとみられるものが23.2%、中学生を被写体としてとみられるものが3.9%、小学生を被写体としてとみられるものが3.1%、幼児を被写体としてとみられるものが0.1%あった。

(図3-7-1及び図3-7-2)

被写体の年齢については、映像のタイトル等の記述を基にし、6歳未満を幼児、13歳未満を小学生、16歳未満を中学生、18歳未満を高校生としている。以下は、ひとつのホームページ上で、もっとも年齢が低い映像について分類したものである。なお、年齢についての記述がないものは「該当なし」に分類している。

図3-7-1 チャイルドポルノ性 (度数)

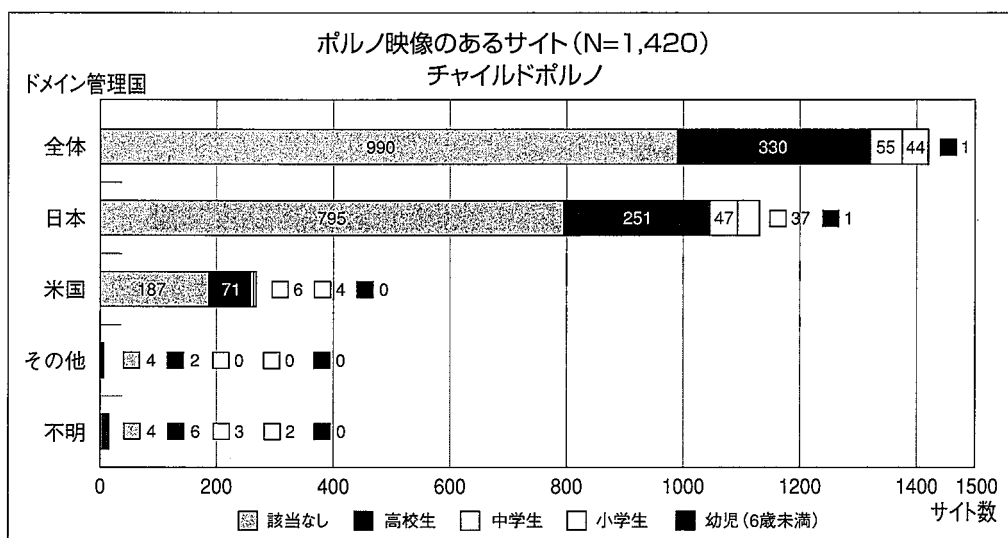


図3-7-2 チャイルドポルノ性 (百分率)

